

「常教矣」の一文が見える。

100 ○宗 …おおもと、本源、根本の考え、むね。

○自然…①本来のまま、人工が加わらない状態。

②ありのまままで無理をしないこと。

『漢語大詞典』には、「天然、非人為的」と説明する。『老子』に「人法地、地法天、天法道、道法自然」の一文を引く。『莊子』「徳充符」にも「吾所謂無情者、言人之不以喜怒内傷其身、常因自然而不益生也」の一文が見える。

(荒川 美枝子)

101 ○慤慤…ねんごろ、手厚く親切なこと。

『史記』「楽書」に「得以接歛喜合中慤慤」の一文が見える。

『漢語大詞典』では、「亦作慤慤。情意懇切」と説明する。

○齊物論…『莊子』のなかの篇名。物論(世論)を齊しくするを論ず。

▼ここでは、物を齊しくする論、すなわち万物がひとつであることの論理を明らかにするという意味。「物」とは「我」(主体)に対する対象(客体)であり、莊子の齊物の哲学によれば、すべての対象が差別を超えて齊同(＝ひとしく同じい)の価値を有するが、視点を移せば、「我」もまた「物」の一つに他ならない。(齊物論を「物論」すなわち世間の議論を齊しくすると訓む説もある)。

(福永光司・興膳宏訳『老子・莊子』P.102世界古典文学全集)

『漢語大詞典』では、「①春秋戦国時老莊学派の一種哲学思想。論為宇宙間切事物、如生死寿夭、是